

科目名	社会福祉原論特論Ⅰ
科目責任者	大友 信勝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	1. 社会福祉における「自立論」を中心にして開講する。 2. 社会福祉専門職に相当する生活相談・支援を誰が、どのように行ってきたのか。戦後は何故、専門職に切り替えたのか。その専門職の位置づけや水準はどういうものか、歴史的に検討する。 3. 社会福祉専門職の成立、形成、展開を中心に展開する。
到達目標	現代社会福祉の歩みと社会福祉専門職の形成、展開を関連付け、専門職制度の成立に必要な基盤づくり、社会的条件整備について理解するのが到達目標である。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：社会福祉における自立論の動向－各分野における自立論の原理、理念 第 3 回：公的扶助における自立論－経済的自立論が政策の主流 第 4 回：救護法における自立論－方面委員活動に見る自立論 第 5 回：旧生活保護法にみる自立論－民生委員活動にみる自立論 第 6 回：GHQ（連合軍総司令部）のソーシャルワーク 第 7 回：厚生省保護課長・小山進次郎の自立論（『改訂増補 生活保護法の解釈と運用』） 第 8 回：仲村優一による公的扶助とケースワーク 第 9 回：公的扶助研究運動にみる自立論の取り組み－経済的自立論から社会的自立論へ 第 10 回：自立論を経済的自立、日常生活自立、社会的自立の並列と組み合わせで構成 第 11 回：釧路モデルが「半福祉・半就労」（社会参加）の中間的就労の概念を打ち出す 第 12 回：韓国・希望リボーンプロジェクトの自立論Ⅰ 第 13 回：韓国・希望リボーンプロジェクトの自立論Ⅱ 第 14 回：社会福祉における「自立論」の形成と歩み（1） 第 15 回：社会福祉における「自立論」の形成と歩み（2）

学修方法	重要な論点を講義し、関心のある領域を院生が発表し、討議する。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談を中心にフィードバックする。
指定図書	『韓国における新たな自立支援戦略』高菅出版
参考書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	事前学修：シバスのテーマを事前に学習する。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	研究室 (5703) にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業で提示します。

科目名	社会福祉原論特論Ⅱ
科目責任者	大友 信勝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	1. 「社会福祉と貧困」をテーマにして、公的扶助制度の歩みを実証的に分析、考察する。 2. 社会福祉が貧困にどのように向き合ってきたのか。歴史的、社会的に追求し、現代の貧困にどう立ち向かうべきかを考察する。 3. 公的扶助において、生活保護制度がどのように展開され、今日どのような問題や課題があるか、研究する。
到達目標	社会福祉における公的扶助の制度的な特徴、問題点や課題について、社会福祉の政策理論がどのように研究してきたか。社会福祉政策論と貧困研究の関連、特徴、課題を明らかにするのが目標である。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：救護法の特徴と問題点（1） 第 3 回：救護法実施促進運動（2） 第 4 回：救護法と方面委員制度（3） 第 5 回：生活保護法の運用と解釈（小山進次郎） 第 6 回：生活保護制度サービス論争Ⅰ（黒木利克を中心に） 第 7 回：生活保護制度サービス論争Ⅱ（小川政亮を中心に） 第 8 回：仲村・岸による「公的扶助とケースワーク」論争Ⅰ（仲村優一を中心に） 第 9 回：仲村・岸による「公的扶助とケースワーク」論争Ⅱ（岸勇を中心に） 第 10 回：「公的扶助とケースワーク」論争と公的扶助研究運動 第 11 回：公的扶助研究運動の成立と展開 第 12 回：福祉給付金受給者への「適正化」条例（監視型 1） 第 13 回：生活保護ホットライン（監視型 2） 第 14 回：大阪市「不正受給調査専任チーム」（監視型 3） 第 15 回：社会福祉とは何かー社会福祉における貧困の位置と特徴

学修方法	主要な論点を授業で説明し、関心のある領域を院生が発表するやり方を考えている。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談を中心にフィードバックを行います。
指定図書	『韓国における新たな自立支援戦略』高菅出版
参考書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテーマを学修する。(40 分) 事後学修：講義内容を振り返る学修。(40 分)
オフィスアワー	研究室 (5703) にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業で提示します。

科目名	社会福祉原論特論演習
科目責任者	大友 信勝
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋
科目の位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	1. 「社会福祉と貧困」を研究するために、現代の貧困についての実証的な先行研究を取り上げ、福祉事務所における実践・研究報告を学ぶ。 2. 福祉事務所における社会福祉専門職の実態と動向、その問題点と今後の課題を検討する。 3. 事例研究や生活保護裁判の判例研究を行い、政策と実践の問題点を学び、改善・解決に向けた課題を研究する。
到達目標	「社会福祉と貧困」の研究は利用者の人権、尊厳、生活と生命に関わる専門性が求められ、専門職によって行われる実践であることを理解し、研究に生かす
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：「社会福祉と貧困」研究は人間の尊厳とどう向き合っているか―事例研究の方法を通して分析・考察する。 第3回：札幌市姉妹孤立死事件（2012年1月）の事例研究 第4回：生活保護「水際作戦」で約10回申請拒否された事例の研究 第5回：生活保護における「水際作戦」とは何か―歴史と現状 第6回：なぜ社会福祉は貧困を重視するのか―貧困の重層化と連鎖 第7回：子どもの貧困にみる「貧困の連鎖」―学習支援、子ども食堂の実践動向 第8回：就学援助と最低賃金、非正規雇用の関連―社会的セーフティネットの構築 第9回：貧困とスティグマ（恥の烙印）1―生活保護バッシング 第10回：貧困とスティグマ（恥の烙印）2―監視と密告の奨励 第11回：労働と貧困―非正規雇用と格差拡大の構造 第12回：現代の貧困に立ち向かう仕組みと取り組み―釧路モデルの理念と実践 第13回：行政組織でソーシャルワーカーとして働くということ 第14回：「貧困ソーシャルワーク」の誇りとワーカー像 第15回：「貧困ソーシャルワーク」の明日を目指して

学修方法	個別指導と院生の発表を組み合わせます。院生に、協議の上、関心のあるところを報告してもらいます
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%で評価する
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談を中心にフィードバックいたします。
指定図書	特定の指定図書はない。
参考書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテーマを学修する。(40 分) 事後学修：授業内容を振り返る学修。(40 分)
オフィスアワー	研究室 (5703) にて、自由に研究相談に応じます 時間については、初回授業で提示します

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	佐藤順子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅱとともに、近年の社会福祉・地域福祉政策の動向の中でソーシャルワーカーに一層強く求められるようになったコミュニティソーシャルワークとコミュニティワークという方法について理解し、実践方法を身につけることを目指す。 特にソーシャルワーク特論Ⅰでは、コミュニティソーシャルワークについて学びを深める。
到達目標	1. 地域福祉の政策・理論の変遷について理解できる 2. 近年ソーシャルワーカーに求められる新たな役割について理解できる。 3. コミュニティワークとコミュニティソーシャルワークについて、それぞれの概要、発展過程について理解できる 4. コミュニティソーシャルワークの展開プロセス、方法について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 近年の社会福祉、地域福祉の政策動向とソーシャルワーカーの新たな課題 第2回：生活の基盤としての地域社会 第3回：地域福祉政策、地域福祉理論の変遷 第4回：地域福祉援助の発展過程の概要 第5回：コミュニティオーガニゼーションからコミュニティワークへ 第6回：コミュニティワークからコミュニティソーシャルワークへ 第7回：イギリスバークレイ報告とコミュニティソーシャルワーク 第8～9回：コミュニティソーシャルワークの実践事例 第10回：コミュニティソーシャルワークのプロセス 第11～12回：コミュニティソーシャルワークの方法① 地域における福祉ニーズ把握とアセスメント、プランニング、評価 第13～15回：コミュニティソーシャルワークの方法② ネットワークの活用、連携・協働

学修方法	発表、討論で進めていく
評価方法	レポート 50%、授業中の発表・討議・演習への参加 50%
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う
指定図書	岩間伸之・原田正樹著『地域福祉援助をつかむ』有斐閣
参考書	高森敬久：高田眞治・加納恵子・平野隆之著『地域福祉援助技術論』相川書房
事前・事後学修	事前に指定図書・論文を熟読する。発表担当者はレジュメにまとめ、報告する
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅱとともに、近年の社会福祉・地域精神保健医療福祉政策・子ども・若者政策の動向の中でソーシャルワーカーに一層強く求められるようになった精神保健ソーシャルワークと子ども・若者ソーシャルワークについて理解し、実践方法を身につけることを目指す。特にソーシャルワーク特論Ⅰでは、地域精神保健医療ソーシャルワークについて学びを深める。
到達目標	1. 精神保健医療福祉政策・理論の変遷について理解できる 2. 近年ソーシャルワーカーに求められる新たな役割について理解できる。 3. 地域精神保健医療ソーシャルワークと子ども・若者ソーシャルワークについて、それぞれの概要、発展過程について理解できる 4. 地域精神保健医療ソーシャルワーク展開プロセス、方法について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 近年の社会福祉・精神保健医療福祉政策・子ども・若者政策の動向とソーシャルワーカーの新たな課題 第2回：地域社会と精神保健医療福祉政策①（国内） 第3回：地域社会と精神保健医療福祉政策②（先進諸国） 第4回：精神疾患の治療とリハビリテーション 第5回：精神障害者の人権と地域生活支援システム 第6回：精神障害者の居住支援・訪問型支援 第7回：精神障害者の就労支援 第8回：精神障害者と家族支援 第9回～11回：地域精神保健医療コミュニティソーシャルワークの実践事例 第12回～13回：地域精神保健医療コミュニティソーシャルワークの方法① 地域における精神保健医療福祉ニーズの把握とアセスメント、プランニング、評価 第14回～15回：地域精神保健医療コミュニティソーシャルワークの方法② ネットワークの活用、連携・協働、社会資源開拓

学修方法	重要な論点を講義し、関心のある領域を大学院生が発表し、討議する。
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後のリアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座第3版『第7巻 精神障害者の生活支援システム』中央法規出版
参考書	地域における多機能型精神科診療所実践マニュアル 金剛出版
事前・事後学修	事前学修：シブスのテーマを事前に学習する。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	研究室（2608）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位(30時間) 選択 春
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を取得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅱとともに、わが国の高齢者支援領域、障害者支援領域等における実践現場の諸課題を理解し、諸課題に対するソーシャルワークの役割を検討する。なお、ソーシャルワーク特論Ⅰでは高齢者支援領域に焦点化する。
到達目標	1. 高齢者支援の変遷と社会福祉基礎構造改革について理解できる。 2. 社会福祉基礎構造改革以降の実践現場の諸課題を、ソーシャルワークの視点から理解できる。 3. 実践現場の諸課題に対するソーシャルワークの役割を理解できる。 4. 諸課題に対する実践の方略を検討することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション／高齢者支援領域における実践現場の課題 第2回：高齢者支援の歴史 第3回：措置制度と利用契約制度、社会保険方式 第4～8回：社会福祉基礎構造改革と高齢者支援の変容 ・思想的・財政的背景 ・介護保険制度の変遷と問題点 高齢者の暮らし／支援の質的変容（支援関係の矮小化）／制度の変遷 第9～10回：社会福祉実践現場の現状と課題 第11～13回：実践現場の課題とソーシャルワークの役割 第14～15回：諸課題に対する実践の方略—ソーシャルワーカーが取り組むこと—

学修方法	文献・資料、フィールドワーク等を用いて論議を深めていく。
評価方法	レポート:50%、授業への参加態度:50%
課題に対するフィードバック	毎回の授業でその都度フィードバックを行う。
指定図書	北川清一・川向雅弘 編著『社会福祉への招待』ミネルヴァ書房 北川清一・久保美紀 編著『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
参考図書	その都度提示する。
事前・事後学修	事前に指定図書・論文等を熟読し、質問と意見を用意しておくこと。
オフィスアワー	川向雅弘:2705研究室 時間帯については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	福田俊子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春セメスター
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ及びⅡでは、ソーシャルワークのなかでも主として個別支援にかかわる基本的な知識を確認し、理解することを目的とする。本科目においては、ソーシャルワークの理念及び歴史を基盤としながら、その方法や展開過程に関する学修に主眼をおく。
到達目標	1. ソーシャルワークの基本枠組を理解できる 2. ソーシャルワークの実践と理論を結びつけて考えられるようになる 3. ソーシャルワーク実践の基盤となる展開過程について、理解し説明できるようになる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2・3回： ソーシャルワークの理念 （ノーマライゼーション、クオリティ・オブ・ライフ、エンパワメント） 第4・5回： ソーシャルワークの歴史 （1800年代末～1960年代、1970年代以降） 第6・7・8回： ソーシャルワークとモデル （個人モデル、環境モデル、物語モデル、文化モデル） 第9・10・11・12回： ソーシャルワークの展開過程 （インテーク、アセスメント、計画の策定、計画の実施、評価、終結） 第13回： ソーシャルワークの実践事例①（障がい者とソーシャルワーク） 第14回： ソーシャルワークの実践事例②（こどもとソーシャルワーク） 第15回： ソーシャルワークの実践事例③（司法とソーシャルワーク）

学修方法	学生による発表及び討論で進めます。
評価方法	授業中の態度 50%、総括レポート 50%
課題に対するフィードバック	授業内の討議等に対応します。
指定図書	稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ』有斐閣
参考書	随時、提示します。
事前・事後学修	事前に指定図書を熟読し、レジメにまとめる。(30 分程度) 事後には、不明な事項を自ら調べる。(30 分程度)
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2614 です。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	佐藤順子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅱとともに、近年の社会福祉・地域福祉政策の動向の中でソーシャルワーカーに一層強く求められるようになったコミュニティソーシャルワークとコミュニティワークという方法について理解し、実践方法を身につけることを目指す。 特にソーシャルワーク特論Ⅱでは、コミュニティワークについて学びを深める。
到達目標	1. コミュニティワークの概念の変遷について理解できる 2. コミュニティワークの対象、理念について理解できる 3. コミュニティワークの展開プロセス、方法について理解でき、実践力が身につく
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～4回：コミュニティワークの実践事例 第5回：コミュニティワーク概念の変遷 第6回：コミュニティワークの対象 第7回：コミュニティワークの理念 第8回：コミュニティワークのプロセスモデル 第9～13回：コミュニティワークの方法 地域アセスメント、プランニング、組織化活動、地域福祉計画、福祉教育 第14回：コミュニティソーシャルワーカーとコミュニティワーカー 第15回：まとめ

学修方法	発表、討論で進めていく
評価方法	レポート 50%、授業中の発表・討議・演習への参加 50%
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う
指定図書	岩間伸之・原田正樹著『地域福祉援助をつかむ』有斐閣
参考書	高森敬久：高田眞治・加納恵子・平野隆之著『地域福祉援助技術論』相川書房
事前・事後学修	事前に指定図書・論文を熟読する。発表担当者はレジュメにまとめ、報告する
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅰとともに、近年の社会福祉・地域精神保健医療福祉政策・子ども・若者政策の動向の中でソーシャルワーカーに一層強く求められるようになった精神保健ソーシャルワークと子ども・若者ソーシャルワーク（スクールソーシャルワーク含む）について理解し、実践方法を身につけることを目指す。特にソーシャルワーク特論Ⅱでは、子ども・若者ソーシャルワークについて学びを深める。
到達目標	1. 子ども・若者政策・理論の変遷について理解できる 2. 近年ソーシャルワーカーに求められる新たな役割について理解できる。 3. 地域精神保健医療ソーシャルワークと子ども・若者ソーシャルワーク、・スクールソーシャルワークについて、それぞれの概要、発展過程について理解できる 4. 子ども・若者ソーシャルワーク展開プロセス、方法について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 近年の社会福祉・精神保健医療福祉政策・子ども・若者政策の動向とソーシャルワーカーの新たな課題 第2回：地域社会と子ども・若者政策①（国内） 第3回：地域社会と子ども・若者政策②（先進諸国） 第4回：発達障害児への療育、特別支援教育・スクールソーシャルワーク 第5回：不登校児への支援と家族支援・スクールソーシャルワーク 第6回：被虐待児への支援と家族支援・スクールソーシャルワーク 第7回：ひきこもる若者への支援と家族支援 第8回：若者の自傷・自殺問題とソーシャルワーク 第9回～11回：子ども・若者への支援とソーシャルワークの実践事例 第12回～13回：子ども・若者ソーシャルワークの方法① 地域における子ども・若者支援へのニーズ把握とアセスメント、プランニング、評価 第14回～15回：子ども・若者ソーシャルワークの方法② ネットワークの活用、連携・協働、社会資源開拓

学修方法	重要な論点を講義し、関心のある領域を大学院生が発表し、討議する。
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後のリアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。
指定図書	子ども・若者政策のフロンティア 晃洋書房
参考書	地域における多機能型精神科診療所実践マニュアル 金剛出版
事前・事後学修	事前学修：シラバスのテーマを事前に学習する。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	研究室（2608）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位(30時間) 選択 秋
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を取得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅰとともに、わが国の高齢者支援領域、障害者支援領域等における実践現場の諸課題を理解し、諸課題に対するソーシャルワークの役割を検討する。なお、ソーシャルワーク特論Ⅱでは障害者支援領域に焦点化する。
到達目標	1. 障害者支援の歴史と問題点について理解できる。 2. 今日求められている障害者支援の方向性を、ソーシャルワークの視点から理解できる。 3. 実践現場が抱える諸課題に対するソーシャルワークの役割を理解できる。 4. 諸課題に対する実践の方略を検討することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション／わが国の障害者支援の歴史と内省的考察 第2回：障害者支援の歴史的理解 第3回：措置制度と利用契約制度 第4回：介護保険制度と障害者総合支援法、その制度的相違と相関 第5回：「障害者の65歳問題」の構造的理解 第6～11回：支援概念の本質的理解 自立支援とは／意思決定支援とは／生活を支援するとは／合理的配慮とは 第12回：自立生活支援の課題―「暮らしを支援する」とはどのようなことか― 第13回：障害者の就労支援の課題―なぜ「就労」が強調されるのか― 第14回：障害者の親亡き後の支援の課題―障害者にとっての「親」とは― 第15回：諸課題に対する実践の方略―ソーシャルワーカーが取り組むこと―

学修方法	文献・資料、フィールドワーク等を用いて論議を深めていく。
評価方法	レポート:50%、授業への参加態度:50%
課題に対するフィードバック	毎回の授業でその都度フィードバックを行う。
指定図書	北川清一・川向雅弘 編著『社会福祉への招待』ミネルヴァ書房 北川清一・久保美紀 編著『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
参考図書	その都度提示する。
事前・事後学修	事前に指定図書・論文等を熟読し、質問と意見を用意しておくこと。
オフィスアワー	川向雅弘:2705研究室 時間帯については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	福田俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋semester
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ及びⅡでは、ソーシャルワークのなかでも主として個別支援にかかわる基本的な知識を確認し、理解することを目的とする。本科目においては、ソーシャルワークの展開過程の基盤となる「援助関係の形成」に焦点をあて、バ이스テックの 7 原則を取り上げながら、原則の構造を理解しその活用について学修する。
到達目標	1. バイステックの 7 原則とソーシャルワークの展開過程の関係について理解できる 2. バイステックの理論背景について理解できる 3. 7 原則の構造について説明できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2・3 回： ケースワークにおける援助関係の本質、バイステックという人物 第 4 回：原則 1 クライエントを個人として捉える 第 5 回：原則 2 クライエントの感情表現を大切にする 第 6 回：原則 3 援助者は自分の感情を自覚して吟味する 第 7 回：原則 3 にかかわる事例 第 8 回：原則 4 受けとめる 第 9 回：原則 4 にかかわる事例 第 10 回：原則 5 クライエントを一方向的に避難しない 第 11 回：原則 6 クライエントの自己決定を促して尊重する 第 12 回：原則 6 にかかわる事例① 第 13 回：原則 6 にかかわる事例① 第 14 回：原則 7 秘密を保持して信頼感を醸成する 第 15 回：原則及びジレンマの構造、まとめ

学修方法	学生による発表及び討論で進めます。
評価方法	授業中の態度 50%、総括レポート 50%
課題に対するフィードバック	授業内の討議等で対応します。
指定図書	F・P・バイステック『ケースワークの原則[新訳改訂版]』誠信書房
参考書	稲沢公一『援助関係論入門』有斐閣
事前・事後学修	事前に指定図書を熟読し、レジメにまとめる。(30 分程度) 事後には、不明な事項を自ら調べる。(30 分程度)
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2614 です。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	佐藤順子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ・Ⅱを踏まえ、コミュニティソーシャルワーク、コミュニティワークに係る課題について、各自の関心に基づいて研究し、その成果を報告し、討論することをおして理解を深める
到達目標	1. 地域福祉政策、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークに係る事例報告、論文を読み、論点が理解できる 2. 自分の関心領域を明確化できる 3. 関心領域に関する先行研究を探索し、要点をまとめ、報告することができる 活発な集団討論ができ、理解を深めることができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～6回：地域福祉、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークに関する主要な研究論文を読み、批判的に考察する 第7回：地域福祉、コミュニティワークに関する関心領域の明確化 第8～14回：各自が関心をもつ領域に係る論文を探索し、まとめ、論議し、理解を深める 第15回：まとめ

学修方法	演習科目です。
評価方法	レポート 50%、授業中の報告・討議への参加 50%
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う
指定図書	特になし
事前・事後学修	発表担当者はレジュメにまとめ、報告する。 発表後は、討論を踏まえて再検討し、次回に活かす。
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究テーマを立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ・Ⅱの学びを踏まえ、わが国のソーシャルワーク実践現場の諸課題を整理し、諸課題に対するソーシャルワークの役割を研究する。さらに、研究成果をまとめ、報告し、討論を通して理解を深める。
到達目標	1. 実践領域に関連する社会福祉政策、ソーシャルワーク実践現場の課題に関連する主要な文献を読み、批判的に考察する。 2. 自身の関心と問題意識を明確化できる。 3. 関心領域の先行研究レビューを行い、その報告と討論ができ、新たな気づきと理解を得ることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション／研究の進め方 第2～6回：主要な文献にあたり、批判的に考察する。 第7回：関心・問題意識の明確化 第8～14回：問題意識にかかわる文献を探索し、まとめ、報告し、論議し、理解を深める。 第15回：まとめ／今後の研究に向けて

学修方法	演習科目です。
評価方法	レポート等成果物:50%、演習への参加態度：50%
課題に対するフィードバック	毎回の演習でその都度フィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	その都度提示する。
事前・事後学修	発表担当者はレジュメにまとめ、報告をする。
オフィスアワー	川向雅弘：2705研究室 時間帯については授業時に提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋
科目の位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ・Ⅱを踏まえ、疫学・統計学手法に則り、精神保健医療福祉領域、子ども・若者支援領域に係る課題について、各自の関心に基づいて研究し、その成果を報告し、討論することをとおして理解を深める。統計データ分析ソフトは、Stataを使用します。
到達目標	1. 精神保健ソーシャルワークと子ども・若者ソーシャルワークに係る事例報告、論文を読み、論点が理解できる。 2. 自分の関心領域を明確化できる 3. 関心領域に関する先行研究を探索し、要点をまとめ、報告することができる。また、活発な集団討践ができ、理解を深めることができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～6回：精神保健医療福祉領域、子ども・若者支援領域に関する主要な研究論文を読み、批判的に考察する 第7回：精神保健医療福祉領域、子ども・若者支援領域に関する関心領域の明確化 第8～14回：各自が関心をもつ領域に係る論文を探索し、まとめ、論議し、理解を深める 第15回：まとめ

学修方法	関心のある領域を大学院生が発表し、研究目的、方法などについて討議する。
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後のリアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。
指定図書	改訂 Stata による社会調査データの分析 北大路書房
参考書	基礎から学ぶ 楽しい疫学（第3版） 医学書院
事前・事後学修	事前学修：シブスのテーマを事前に学習する。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）
オフィスアワー	研究室（2608）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。

科目名	ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	福田俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋セメスター
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワークの専門性にかかわる基本的な知識を修得した上で、スーパービジョンの基礎理論及びソーシャルワーカーの育ちにまつわる一連の実態調査研究について学びを深め、ソーシャルワークの専門性を再考する。
到達目標	1. 我が国及び北米における専門職問題について理解できる。 2. 我が国におけるソーシャルワーカーを対象とした育ちにかかわる先行研究を概括し、「成長とは何か」「専門性とは何か」について、自分なりの意見をもてるようになる。 3. ソーシャルワーカーを養成するためのシステムについて、自分なりの意見をもてるようになる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2・3 回：北米における社会福祉専門職の歴史 第 4・5 回：我が国における社会福祉専門職問題の歴史と課題 第 6・7 回：社会福祉専門職の概念と条件 第 8 回：スーパービジョンの基礎理論 第 9 回：ソーシャルワーカーの育ちの過程①：初学者の実践 第 10 回：ソーシャルワーカーの育ちの過程②：新人の実践 第 11 回：ソーシャルワーカーの育ちの過程③：中堅の実践 第 12 回：ソーシャルワーカーの育ちの過程④：ベテランの実践 第 13 回：育ちを促進する要因 第 14 回：育ちを促進する装置 第 15 回：まとめ

学修方法	学生による発表及び討論で進めます。
評価方法	授業中の態度 50%、総括レポート 50%
課題に対するフィードバック	授業内の討議等で対応します。
指定図書	特に定めません。必読の論文を指定します。
参考書	随時、提示します。
事前・事後学修	事前に指定図書を熟読し、レジメにまとめる。(30 分程度) 事後には、不明な事項を自ら調べる。(30 分程度)
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2614 です。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	こども・家庭福祉特論Ⅰ
科目責任者	石川 瞭子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	2. 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	こども・家庭福祉を研究するにあたって踏まえなくてはならない点はシステム論的認識論および生態学的認識論ならびに精神保健学的理解の必要性である。また心理学や精神保健学の知識がないと人間関係は理解が進まない。それらは解決方法に具体的な示唆を与えるのに必要な要素・理論である。そうした学びを通して、混迷を深めるわが国のこども・家庭福祉の向上に貢献したい。つまり多様な価値観をもつ多様な生活者(こどもを含む)を理解し支援することに繋がるからである。理論を知り議論しそして研究をしていくことができる。
到達目標	1. システム論的認識論・生態学的認識論を知ることができる。 2. 精神保健学的・心理学的な多様な視野をもち児童・家族心理学上の諸問題を解決する支援技術を知ることができる。 3. 社会構成主義の物語処方や短期療法、描画療法や家族療法等の意義を理解し、事例を通して対応の技術を習得することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：全体のオリエンテーション 本演習の意義と目的・到達点 第2回：児童・家庭システムとは何かを事例から理解する 第3回：院生が持参する機能不全家族の家族システムの事例を全員で読み解く 第4回：家族システムの中のサブシステムに関して事例から理解する 第5回：院生が持参する機能不全家族のサブシステム上の問題を読み解く 第6回：拡大家族システムに関して事例から理解する 第7回：院生が持参する機能不全家族の拡大家族システム上の問題を読み解く 第8回：社会システムの中の家族システムを理解する 第9回：院生が持参する社会システムの影響で機能不全に陥った家族の問題を読み解く 第10回：学校教育システムと児童・家庭システムに関して理解する 第11回：院生が持参した児童問題のうち学校教育システム上の問題を読み解く 第12回：職場システムと児童・家庭システムに関して理解する 第13回：院生が持参する職場システムが家族システムに影響を及ぼした事例を読み解く 第14回：地域システムと児童・家庭システムに関して理解する 第15回：院生が持参する地域システム上の問題が家族システムに与えた事例を読み解く 以上は例であり各院生の状況により授業内容は柔軟に変化させる。基本的にひとりひとりに対応した進行方法を用いる。

学修方法	1. 多くは多様な問題を持ち回りで議論する。議論を学修の中核とする。 2. 多角的なものの見立ての練習から様々な理論を会得し、そこから研究テーマを志向することを学修する。
評価方法	1. 事例を読み解くときに議論をするのでその参加態度で評価する 80%。 2. 研究計画検討会のプレゼンテーションやレポート 20%。
課題に対するフィードバック	1. 年 2 回開催される研究計画検討会の発表内容へのアドバイスと発表後のフィードバック。 2. 関連学会発表や論文投稿の指導等を通してアドバイスとフィードバックを行う。
指定図書	研究領域がことなるため必要が生じた場合は院生と相談する。
参考書	各院生の研究内容が異なるために必要に応じて話し合いで決めていきたい。
事前・事後学修	1. 社会の多様な出来事に関心を抱き、解決・改善方法を常に考え、生活するが事前学習。 2. 事後学習は院生の研究に対する領域の関連論文・著書も熟読する。
オフィスアワー	連絡は ryoko-i@seirei.ac.jp へ。研究室は 5 号館の 7 階 5709 研究室。授業への質問や研究の進め方等の相談事は事前に研究指導の予定がないことをメールで確認してから来室するようにしてほしい。来室は歓迎します。社会福祉学研究科

科目名	こども・家庭福祉論特論Ⅰ
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	2）高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け問題解決を図ることができる。
科目概要	乳幼児の発達や子育てをめぐる今日の問題や課題についてそれぞれが情報収集・文献調査を行い、それをもとに意見交換や考察を行い、子どもの健全な育ち・より幸福なこども時代を送るための環境作りや支援、保育（家庭保育）の方法について検討する。
到達目標	1. 子どもを取り巻く現状と課題を理解する。 2. 様々な文献・論文を講読し、分析・考察する力を養う。 3. 子ども・家庭福祉に関する自らの研究課題を明らかにし、研究の方向性を定める。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：研究の方法—種類 第3回：研究の方法—分析 第4回：研究テーマの選択と進め方・概要 第5回：研究テーマの方向性・研究計画 第6回：文献講読「子どもを取り巻く環境」 第7回：「子どもを取り巻く環境」事例検討 第8回：文献講読「仕事と家庭の両立・男性の育児参加」 第9回：「男性の育児参加」事例検討 第10回：文献講読「子どもの健全な育ち—発達課題」 第11回：「発達課題」について事例検討 第12回：文献講読「親の貧困、未熟性（育児能力の低下）と支援」 第13回：「貧困・育児能力の低下」事例検討 第14回：文献講読「親の精神的問題うつや発達障害等）と支援」 第15回：「親の精神問題」に関する事例検討

学修方法	講義、討議、学外調査、発表（プレゼンテーション）の組み合わせで行います。
評価方法	個々の授業・討議への参加 40%、プレゼンテーション（調査レポート・発表） 60%
課題に対するフィードバック	提出された課題に対してコメントを記載または口頭でフィードバックを行います。
指定図書	プリントを配布
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んで置いてください。 不明な専門用語を事前に調べておいてください。
オフィスアワー	初回にお知らせします。

科目名	こども・家庭福祉特論Ⅰ
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	ソーシャルワークは、人々が抱える個別的で具体的な課題の解決を目指していくが、そのプロセスでは様々な実践的アプローチの中から最適なものを選択する必要がある。 ここでは、当事者による自発的な問題解決能力を引き出すためのエンパワメント・アプローチを取り上げ、増加し続ける子ども虐待に対する効果的な支援としての新しい可能性を探る。 子ども虐待への対応におけるエンパワメントの視点とは、問題解決能力を持っているという前提で当事者を受け止め、当事者と複数の問題解決法等を考え、当事者自身の解決能力を引き出すことである。これらに重点を置く取組みについて文献と事例から学ぶ。
到達目標	1. 現在の児童・家庭福祉領域における子ども虐待の問題について、歴史・法律・対応等の広い視野から理解する。 2. 子ども虐待への対応の中核機関である児童相談所および区市町村の現状と課題を把握する。 3. 子ども虐待へエンパワメントの視点から介入することが、問題解決に効果的であることを実践事例等から理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2-3回：諸外国とわが国の子ども虐待における対応の歴史 第4-5回：現代における子ども虐待の定義（法律における定義、マルトリートメント） 第6-7回：子ども虐待に関する先行研究 第8-9回：子ども虐待をめぐる最近の動向 第10-11回：子ども虐待への対応における現状の問題点 第12-13回：エンパワメントの概念と定義 第14-15回：エンパワメント概念の普及

学修方法	講義だけでなく、最近の社会的動き等を意識しながら新聞や文献を読んで学びを深める。
評価方法	自ら問題意識を持って進める態度で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を共有しながら進める。
指定図書	必要に応じて紹介する。
参考書	必要に応じて紹介する。
事前・事後学修	自分の関心のある領域の本を読む。 授業での議論等をまとめる。
オフィスアワー	社会福祉学研究科、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	こども・家庭福祉特論Ⅱ
科目責任者	石川 瞭子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	2. 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	こどもの問題と家族の問題とは複雑に交差して独自の形で表出される。家族はシステムである点は春セメで理解できたとしても、問題はシステムとして構造化される点の理解はたやすいことでない。秋セメでは問題の構図として主訴・症状・問題を解き明かしていく。それは解決の方法と方向を決定づけている。こどもの問題の多くは夫婦システムのゆがみから生じている場合が多いのは指摘するまでもない。そうした環境で育てば非行に走ったり、引きこもりになったりする子もいる。本講では子の問題を解決するためにどのような解決方法があるか解決事例から技術と理論を修得することを目的とする。
到達目標	1. 社会構成主義・家族療法・短期療法・夫婦療法・物語処方・外在化処方・描画療法など欧米で汎用されているファミリーソーシャルワーク技法を修得することができる。 2. 生活問題の解決方法を時事問題等の検討を通して具体的に思考することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：本校の進め方 意義とも目的と到達点 第2回：社会構成主義の理解 なぜ社会構成主義が生まれたか 歴史的考察 第3回：社会構成主義の実際 「言葉が世界を構成する」とは 第4回：家族療法 家族システム理論の発展と問題点 その解決方法とは 第5回：夫婦療法 夫婦のコミュニケーションの特徴 日本の夫婦の問題の解決方法 第6回：拡大家族とのコミュニケーションの特徴 日本の「家」制度の問題の解決方法 第7回：子どもの問題の解決 主訴を巡って 解決方法 第8回：子どもの問題の解決 症状を巡って解決方法 第9回：子どもの問題は家族の問題の構造化されたもの、家族システムの解決方法 第10回：夫婦システムは祖父母家族の関係性から影響を受けている「世代連鎖」を断ち切る方法 第11回：不登校を例に児童・家庭問題の解決方法を理解する 事例によって違う解決方法 第12回：児童の諸問題を解決するための家族療法を理解する 事例によって違う家族療法 第13回：物語処方・外在化処方の事例を用いて理解する 解決事例から考察する 第14回：家族描画療法の事例を用いて理解する 解決事例から考察する 第15回：児童・家庭福祉の精神保健、家族のリスクマネジメント まとめ 以上は例事であり院生の研究の進捗状況により柔軟に授業を変更することもある。特論演習 1 の流れの延長として対応を変化させることがある。

学修方法	議論参加型で実際の事例をもとに院生とともに具体的解決を検討する学修方法をとる。関連図書および関連論文を読破することを求めたい。また関連学会に参加し多様な意見に触れることを勧める。社会の出来事を幅広く理解し知見を深めて議論を行う学修方法をとる。
評価方法	1. 事例を読み解くときの議論への参加 80% 2. 学会発表や投稿論文やレポート 20%
課題に対するフィードバック	1. 年 2 回の研究計画検討会の発表前にアドバイスをを行い発表後に取り組みについてフィードバックを行う。 2. 学会発表・論文投稿のアドバイスを通して院生の研究への取り組みにフィードバックを行う。また他の院生とのディスカッション参加の状況についてもフィードバックを行う。
指定図書	必要あれば個々人に提示することはある。特に指定はしない。
参考書	必要あれば個々人に指示あり。特に指定はしない。
事前・事後学修	1. 時事問題に関心を持ち日ごろから防止方法を検討しておくこと。関連する領域に対する文献等を深く読み込むことを事前学習とする。 2. 自らの論文等を振り返りながら研究内容を深めることを主体的に行うことを事後学習とする。
オフィスアワー	研究室は 5 号館 7 階 5709 研究室 ryoko-i@seirei.ac.jp へメール連絡の上に来室は事前に申し込みをしてほしい。相談や質問等は歓迎します。社会福祉学研究科。 毎週土曜日は研究室に来て相談等をすることを勧めたい。

科目名	こども・家庭福祉特論Ⅱ
科目責任者	太田雅子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋セメスター
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け問題解決を図ることができる。
科目概要	乳幼児の発達や子育てをめぐる今日の問題や課題についてそれぞれがフィールド調査を行い、それをもとに意見交換や考察を行う。それによって子どもの健全な育ち・より幸福なこども時代を送るための環境作りや支援、保育（家庭保育）の方法を見出すことを目的とする。
到達目標	1. 子どもを取り巻く現状と課題から自分の研究テーマを見出す。 2. 子ども・家庭福祉に関する自らの研究課題を明らかにし、研究の方向性を定める。 3. フィールドスタディを計画し・実行した結果を分析・考察する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：各自の研究テーマについての発表① 第2回： 各自の発表に対する討議 第3回：発表・討議からのまとめ 第4回：各自の研究テーマについての発表② 第5回：発表に対する討議 第6回：発表・討議からのまとめ 第7回：フィールドスタディ（視察調査） に向けた準備—調査目的 第8回：フィールドスタディに向けた 第9回：フィールドスタディの実際 準備—方法の検討 第10回：フィールドスタディの実際2回目 第11回：フィールドスタディの実際3回目 第12回：フィールドスタディの実際4回目 第13回：報告書の作成 第14回：報告書からのプレゼンテーション 第15回： まとめ

学修方法	講義、討議、学外調査、発表（プレゼンテーション）の組み合わせで行います。
評価方法	個々の授業・討議への参加 40%、プレゼンテーション（調査レポート・発表） 60
課題に対するフィードバック	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んで置くこと 不明な専門用語を事前に調べておくこと
指定図書	プリントを配布。
参考書	随時紹介します。
事前・事後学修	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んでおいてください。 不明な専門用語を事前に調べておいてください。
オフィスアワー	初回にお知らせいたします。

科目名	こども・家庭福祉特論Ⅱ
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	ソーシャルワークは、人々が抱える個別的で具体的な課題の解決を目指していくが、そのプロセスでは様々な実践的アプローチの中から最適なものを選択する必要がある。 ここでは、当事者による自発的な問題解決能力を引き出すためのエンパワメント・アプローチを取り上げ、増加し続ける子ども虐待に対する効果的な支援としての新しい可能性を探る。 子ども虐待への対応におけるエンパワメントの視点とは、問題解決能力を持っているという前提で当事者を受け止め、当事者と複数の問題解決法等を考え、当事者自身の解決能力を引き出すことである。これらに重点を置く取組みについて文献と事例から学ぶ。
到達目標	1. 現在の児童・家庭福祉領域における子ども虐待の問題について、歴史・法律・対応等の広い視野から理解する。 2. 子ども虐待への対応の中核機関である児童相談所および区市町村の現状と課題を把握する。 3. 子ども虐待へエンパワメントの視点から介入することが、問題解決に効果的であることを実践事例等から理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1-2回：心理学および社会福祉におけるエンパワメントの先行研究 第3-4回：子ども虐待の対応へエンパワメントを導入する必要性 第5-6回：児童相談所および区市町村の仕組みと支援体制 第7-8回：虐待する親への予防的支援と当事者参加 第9-10回：被虐待児への心理面接における支援 第11-12回：県内市町の子ども家庭福祉への質問紙調査およびインタビュー調査 第13-14回：虐待する親と被虐待児への支援におけるエンパワメントの視点 第15回：まとめ

学修方法	講義だけでなく、最近の社会的動き等を意識しながら新聞や文献を読んで学びを深める。
評価方法	自ら問題意識を持って進める態度で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を共有しながら進める。
指定図書	必要に応じて紹介する。
参考書	必要に応じて紹介する。
事前・事後学修	自分の関心のある領域の本を読む。 授業での議論等をまとめる。
オフィスアワー	社会福祉学部、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	こども・家庭福祉特論演習
科目責任者	石川 瞭子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	4. 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 5. 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	児童・家庭福祉の押さえてはならない領域は広い。社会福祉の専門知識だけでなく心理学・精神保健学・社会学・教育学などの周辺領域も密接に関連している。つまりこども・家庭福祉はどの視点からもアプローチできる可能性を示唆している。院生各自が研究したい視点を定め、研究する意義と目的にそって思考を深め、研究の進め方の修得をする。
到達目標	1. こども・家庭福祉特論演習は多様なアプローチがあり、カバーしなくてはならない領域も多様なため院生が目的を定め、そこでの意義を見つけ先行研究等を開始することができる。 2. 今までの臨床を振り返り吟味し、思考を深め、修士論文にするために他の院生や教員とともに議論を重ねていく。研究のデザインを煮詰めることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 授業計画の詳細については院生の個々のテーマの違いがあるので個別に面接を行い、指導を検討したい。更に年に複数回博士課程と者牛課程の交流会を開催し相互研鑽を進める。それらのスケジュールは授業の開始時に協議して決めたい。内容は概ね以下である。 (1) 何を研究テーマとし、どの内容を研究の対象とし、どの程度深化させるかを検討する 研究のアウトラインを検討する (2) 研究対象は独自性があり先駆的であるかの検討を行う。先行研究のレビュー等 研究のより具体的デザインを設計する (3) 研究方法を決める 量的研究か質的研究か。 既に決めている者も再度研究方法の妥当性を検討する (4) データー等の調査が必要な研究の場合、本学の倫理委員会に審査を依頼する (5) データー収集後のデーター処理 あるいはエスノグラフィ等の方法から得た情報の処理 データーの利用上の倫理や内容の妥当性等の検討 (6) 調査研究を考察し、他の院生と指導教員と議論し、視点を拡大する 多様な視点、多様な価値観や多様な意義をその研究から引き出す社会性 (7) 考察の内容を項目として挙げる。優れて臨床性に富むか、そのためにはどのような提案が望ましいか具体的に検討する。 (8) 提案する内容の禁忌を具体的に検討する。 (9) 研究の全体の理論の整合性を高める 要旨と論文の整合性を確認する 以上は院生の個々の状況によって適宜調整を図りながら院生同志の切磋琢磨を刺激し進行する。 なによりも主体的に研究活動するために意識の涵養を図る。

学修方法	1. 個別指導と院生同志によるディスカッションで関連領域等の理解を深める学修をする、 2. 後半は個別指導で個々人の研究テーマを煮詰める学修を行う。
評価方法	1. 研究を自発的に進行している態度 60%、関連学会等の発表も含む。 2. 研究あるいはレポート 40%である。投稿論文等への取り組みも評価する。
課題に対するフィードバック	1. 年 2 回開催される研究計画検討会の参加教員や他のゼミ院生からのフィードバックを教員とともに吟味し、乗り越える課題を話しあう。 2. 学会発表・学会誌への投稿を促し、そのたびに課題への取り組みをフィードバックする。
指定図書	各院生の研究内容によって使用すると図書が異なるので相談しながら決めていきます。
参考書	なし。参考になる図書は必要に応じて一緒に検討していく。
事前・事後学修	1. 研究テーマに関して事前に関係論文だけでなく著書やメディア報道にも関心をもって情報を主体的に集める。 2. 事後学習としては投稿論文や学会発表等の研究の深化と進化を追及する。
オフィスアワー	研究は楽しいと思えるように多様な価値観や多様な文化に触れる生活をしてほしい。 連絡は ryoko-i@seirei.ac.jp へ。研究室は 5 号館 7 階の 5709 研究室。論文指導予定がないか確認してから来室してほしい。来室は歓迎する。社会福祉学研究科所属

科目名	こども・家庭福祉特論演習
科目責任者	太田雅子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋セメスター
科目の位置付	（4）研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し、文献レビューを行い、ノートを作る。 研究目的・方法を明確にして研究計画を作成する。
到達目標	1. 文献レビューを確実に行うことができる。 2. 研究計画書を作成することができる。 3. データの収集・分析について理解を深めることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> ※ 授業日程については、受講者と相談・調整を行う。 1. オリエンテーション 2. 文献調査・講読とレビューについて 3. 研究計画書（プロポーザル）の作成について 4. データ収集のための様々な方法 5. 分析・考察の進め方

学修方法	講義、討議、発表・報告、計画書作成等の組み合わせで行います。
評価方法	文献レビュー 50% 研究計画 50%
課題に対するフィードバック	文献レビューや研究計画報告・発表に関して、その都度、フィードバックをします。
指定図書	プリントを配布。
参考書	随時紹介します。
事前・事後学修	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んでおいてください。 不明な専門用語を事前に調べておいてください。
オフィスアワー	初回にお知らせいたします。

科目名	こども・家庭福祉特論演習
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	研究テーマを決め、先行研究や関連する文献を検索し、読み込みを行い、ノートを作成する。研究目的と方法を明確にし、研究計画を立てる。
到達目標	1. 先行研究や文献を検索し、講読し概要をまとめる。 2. 研究目的と方法を明確にして、研究計画書を作成する。 3. データの収集や分析について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 授業日程等については、受講者と相談しながら調整する。 1. オリエンテーション 2. 先行研究や文献の調査・講読・概要のまとめ 3. 研究計画書の作成 4. データ収集のための様々な方法 5. データの分析と結果・考察のまとめ方

学修方法	講義だけでなく、最近の社会的動き等を意識しながら新聞や文献を読んで学びを深める。
評価方法	自ら問題意識を持って進める態度で評価する。
課題に対するフィードバック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を共有しながら進める。
指定図書	必要に応じて紹介する。
参考書	必要に応じて紹介する。
事前・事後学修	自分の関心のある領域の本を読む。 授業での議論等をまとめる。
オフィスアワー	社会福祉学研究科、2610 研究室、時間については初回授業時に提示します。

科目名	高齢者・障害者福祉特論Ⅰ
科目責任者	横尾 恵美子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	高齢者や障がい児者の尊厳の保持し、自立生活支援を行うこと、そして可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう支援することが我が国の政策としても打ち出されています。高齢者や障がい児者だけでなく、家族や地域を含めた支援の確立に向けての取り組みが必要とされています。 本講は高齢者や障がい児者の福祉領域における様々な課題を取り上げ、考察を深めていきます。社会福祉実践や社会福祉専門職の現状等についても検討を深めます。
到達目標	1. 高齢者福祉援助実践を研究として深めるための方法論や技法を検討することができる。 2. 高齢者や障がい児者の尊厳を保持する地域生活支援について検証することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 研究基礎 第1回：実践を研究する意義等 第2回：先行研究探索(高齢者・障害者領域) 第3回：研究テーマの方向性 第4回：調査研究を読み解く 生活と経済 第5回：要支援・要介護者の生活実態と家族機能 第6回：高齢者や障がい者の孤立化 第7回：貧困と就労 第8回：軽微な犯罪を繰り返す高齢者・障がい者の実態と支援 第9回：権利擁護と支援（成年後見制度等） 高齢者や障がい児者の生活の困難性 第10回：生活の困難性について 第11回：地域で暮らす（社会的存在であり続けること）と支援 第12回：介護者の孤立 第13回：家族や地域へのアプローチ 第14回：社会福祉実践の総合的検討 ① （実践事例・研究論文等の検証） 第15回：社会福祉実践の総合的検討 ② （文献レビュー）第1回：

学修方法	毎回のテーマになっている分野の論文等を探索し、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。
評価方法	授業の参加状況（50％）課題発表（50％）
課題に対するフィードバック	課題については授業内にて指導を行う
指定図書	特になし
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業前に提示した授業計画の各内容についてその都度自己学習をしてくる。 各授業内容を応用した自己の研究や実践について考察を深める。
オフィスアワー	初回演習時に提示します。

科目名	高齢者・障害者福祉特論Ⅱ
科目責任者	横尾恵美子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	高齢者・障がい児者の福祉を考える視点として、社会的存在としての生活を重視する。生活の困難性に対する制度やサービス、ネットワークについて学ぶ。 高齢者・障害者福祉領域における様々な課題を取り上げ、考察を深める。高齢者・障がい児者福祉専門職の現状や課題についても検討を深める。
到達目標	1. 高齢者や障がい児者の尊厳を保持する生活支援のための制度や政策、ネットワークを学ぶ。 2. 高齢者・障がい児者の支援専門職の現状や課題について検証し、解決策を提案できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 制度・サービス・ネットワーク 第1回：高齢者・障がい児者の福祉制度 第2回：文献紹介・（高齢者・障害者領域） 第3回：文献紹介・ディスカッション（制度の課題について） 第4回：課題発表・ディスカッション（ネットワークについて） 専門職種の現状と課題 第5回：文献紹介・ディスカッション（実態について） 第6回：文献紹介・ディスカッション（課題について） 第7回：文献紹介・ディスカッション（課題解決に向けて制度の課題について） 第8回：文献紹介・ディスカッション（テーマは自由） 第9回：文献紹介・ディスカッション（テーマは自由） 文献レビュー 第10回：課題発表・ディスカッション 第11回：課題発表・ディスカッション 第12回：課題発表・ディスカッション 第13回：課題発表・ディスカッション 第14回：課題発表・ディスカッション 第15回：課題発表・ディスカッション

学修方法	毎回のテーマになっている分野の論文等を探索し、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。
評価方法	課題の取組み（30%）、プレゼンテーション（30%）、ディスカッション（40%）
課題に対するフィードバック	課題については授業内にて指導を行う
指定図書	特になし
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	授業前に提示した授業計画の各内容についてその都度自己学習をしてくる。 各授業内容を応用した自己の研究や実践について考察を深める。
オフィスアワー	初回授業時に提示します。

科目名	高齢者・障害者福祉特論演習
科目責任者	横尾 恵美子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	高齢者・障害者福祉特論Ⅰの内容をふまえ、高齢者・障害者福祉実践の研究計画の作成を行う。具体的には各自の疑問や関心のあるテーマの論文を取り上げ、グループ討議を行い、研究テーマの絞り込みを行い、研究計画書の作成を行う。これらの過程を通して自己の研究テーマを明確化し、そのうえで仮説の設定からその検証という一連の流れである研究手法を身に着ける。高齢者や障害者の福祉領域のみの先行研究と検討するのではなく、幅広く社会福祉学、看護学、心理学、社会学等々の隣接する領域の知見も深める。質的研究や量的研究の手法についても学び、高い客観性・妥当性が担保された論文の作成技法を修得する。
到達目標	1. 研究テーマを設定して、研究概念枠組みを検討して研究計画書を作成する。 2. 研究計画書を基に倫理委員会の申請書を作成し、承認を得ることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回： 研究の基礎知識 ① 研究とは何か 第 3 回： 研究の基礎知識 ② 文献検索の方法 第 4 回： 研究の基礎知識 ③ 研究における倫理的配慮 第 5 回： 研究テーマの設定 ① 研究の進め方 第 6 回： 研究テーマの設定 ② 疑問や発見とリスト 第 7 回： 研究テーマの設定 ③ 研究デザイン 第 8 回： 研究枠組み ① 概念枠組みとは 第 9 回： 研究枠組み ② 用語の操作的定義について 第 10 回： 研究枠組み ③ 研究疑問からの仮説について 第 11 回： 研究計画書の作成 ① 第 12 回： 研究計画書の作成 ② 第 13 回： 研究計画書の作成 ③ 第 14 回： 倫理申請書の作成 ① 第 15 回： 倫理申請書の作成 ②

学修方法	講義や討議、発表などの形式で行う。
評価方法	授業の主体的な参加状況（30％） 計画書の完成度（70％）
課題に対するフィードバック	課題については授業内にて指導を行う
指定図書	特になし
参考書	授業中に随時連絡
事前・事後学修	自分の関心領域の論文を探索し、独創的かつ実践可能、介護福祉援助実践に応用できる研究な研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。
オフィスアワー	初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論Ⅰ（生活支援論・自立支援介護）
科目責任者	古川 和稔
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	施設完結型介護ではなく、地域型の介護福祉実践に必要な理論と知識について講義を行う。介護職が中心となるチームで、多職種と連携し、多様な支援を行うための知識、要介護高齢者の自立性回復に向けた支援のために必要な自立支援介護の基礎知識について解説する。
到達目標	1. 介護福祉分野および関連諸科学における主要な理論や概念に関する理解を深め、適切な用語を用いて説明できる。 2. 最新の知識、理論を習得し、研究論文に反映させることができる。 3. 自立支援介護に必要な、基本的な生理学の知識について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：介護福祉士による生活支援 介護福祉士の役割、価値・知識・技術 第 2 回：地域ケアを拓く介護福祉士像 第 3 回：生活支援における介護福祉士の役割 第 4 回：介護福祉実践の対象① 物的環境への働きかけ 第 5 回：介護福祉実践の対象② 人的環境への働きかけ 第 6 回：介護福祉士に求められる専門的な生活支援技術の構造 第 7 回：利用者と協働する力 第 8 回：介護チーム・他職種との協働の基盤としての専門知識 第 9 回：自立支援介護と生理学 自立支援介護および高齢者ケアの基本について理解する。 第 10 回：水の生理学(1) 体内における水分のはたらきについて理解する。 第 11 回：水の生理学(2) 水分のケアがもたらす効果について理解する。 第 12 回：水の生理学(3) 慢性心不全と水分ケアについて理解する。 第 13 回：食事ケアの生理学(1) 口腔機能の廃用症候群について理解する。 第 14 回：食事ケアの生理学(2) むせの原因とむせさせないための 5 原則について理解する。 第 15 回：食事ケアの生理学(3) 常食化のための基礎理論について理解する。

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『地域ケアを拓く介護福祉学』シリーズ 生活支援総論』 光生館 『介護の生理学』 秀和システム
参考書	授業中に随時連絡します。
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の古川和稔研究室 (2712 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論Ⅰ（ケアワーク論・介護福祉人材育成論）
科目責任者	野田由佳里
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	・介護の社会化を資格制度と人材育成の両側面から理論的・体系的に考えながら、必要な理論と知識について講義を行う。 ・介護福祉士のキャリアパスについて職業能力から専門性を捉え学問体系について検討を行う。 ・今後の人材の質の向上・量の確保のために、介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラム各種研修制度について概説する。
到達目標	1. 介護福祉分野および関連諸科学における主要な理論や概念に関する理解を深め、適切な用語を用いて説明できる。 2. 介護福祉士養成科目に関する知識、理論を習得し、解説することができる。 3. 介護福祉領域における任用資格などの養成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基礎となる人への理解」 第2回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基礎となる専門性」 第3回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基盤となる介護の歴史」 第4回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基礎となる健康」 第5回：生活支援の実践「生活の連続性と生活支援の実践」 第6回：生活支援の実践「ICFと介護過程の展開」 第7回：生活支援の実践「介護福祉の概念」 第8回：生活支援の実践「生活支援の実際」 第9回：生活支援の実践「多職種の連携」 第10回：介護福祉論「介護福祉の概念」 第11回：介護福祉論「介護問題の背景」 第12回：介護福祉論「介護福祉士の役割」 第13回：介護福祉論「尊厳を支える介護」 第14回：介護福祉論「介護実践における連携」 第15回：介護福祉論「介護従事者の倫理」

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『「地域ケアを拓く介護福祉学」シリーズ 生活支援の基礎理論Ⅰ』光生館 『「地域ケアを拓く介護福祉学」シリーズ 生活支援の実践』光生館
参考書	『介護福祉論』学文社・『一番ヶ瀬社会福祉理論の再検討』ミネルヴァ書房 『ケアの本質 メイヤロフ』
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論Ⅱ（生活支援論・自立支援介護）
科目責任者	古川 和稔
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	施設完結型介護ではなく、地域型の介護福祉実践に必要な理論と知識について講義を行う。介護職が中心となるチームで、多職種と連携し、多様な支援を行うための知識、要介護高齢者の自立性回復に向けた支援のために必要な自立支援介護の基礎知識について解説する。
到達目標	1. 介護福祉分野および関連諸科学における主要な理論や概念に関する理解を深め、適切な用語を用いて説明できる。 2. 最新の知識、理論を習得し、研究論文に反映させることができる。 3. 自立支援介護の基礎理論を理解し、自立支援型ケアプラン作成方法について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：介護福祉士に求められる専門的な生活支援技術の構造 第 2 回：利用者と協働する力 第 3 回：介護の専門的な知識・技術 第 4 回：介護チーム・他職種との協働の基盤としての専門知識 第 5 回：介護福祉実践の構造 第 6 回：チーム・組織のマネジメント、介護チームの形成とリーダーシップ 第 7 回：介護福祉実践の根拠となるもの 第 8 回：排泄ケアの生理学(1) 排泄をトイレで行うための 4 つのケアと戦略について理解する。 第 9 回：排泄ケアの生理学(2) 高齢者の便秘と下剤について理解する。 第 10 回：排泄ケアの生理学(3) おむつはずしのための支援方法について理解する。 第 11 回：歩行の生理学(1) 自立支援介護における歩行の重要性について理解する。 第 12 回：歩行の生理学(2) 歩行能力の再獲得について理解する。 第 13 回：歩行の生理学(3) 運動学習のステージについて理解する。 第 14 回：認知症ケアの生理学(1) 認知の構造について理解する。 第 15 回：認知症ケアの生理学(2) 認知症ケアの 4 原則について理解する。

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『地域ケアを拓く介護福祉学』シリーズ 生活支援総論』 光生館 『介護の生理学』 秀和システム
参考書	授業中に随時連絡します。
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の古川和稔研究室 (2712 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論Ⅱ（ケアワーク論・介護福祉人材育成論）
科目責任者	野田由佳里
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	・介護の社会化を資格制度と人材育成の両側面から理論的・体系的に考えながら、必要な理論と知識について講義を行う。 ・介護福祉士のキャリアパスについて職業能力から専門性を捉え学問体系の検討を行う。 ・今後の人材の質の向上・量の確保のために、介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラム各種研修制度について概説する。
到達目標	1. 介護福祉分野および関連諸科学における主要な理論や概念に関する理解を深め、適切な用語を用いて説明できる。 2. 人材育成・外国人介護士に関する知識、理論を習得し、文章化することができる。 3. 介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：介護福祉職の役割 全人的な援助 第2回：介護福祉職の役割 自己実現 第3回：介護福祉職の役割 代弁者 第4回：介護福祉職の役割 介護過程の展開（実践） 第5回：介護福祉士の課題と育成 第6回：地域包括ケアの担い手 ホームヘルパー 第7回：地域包括ケアの担い手 デイサービスセンター 第8回：地域包括ケアの担い手 小規模多機能型介護 第9回：地域包括ケアの担い手 定期巡回随時対応訪問介護看護 第10回：介護福祉教育 基本的なあり方 第11回：介護福祉教育 教材研究 第12回：国際比較 ケアワーク論「ドイツにおけるケア」 第13回：国際比較 ケアワーク論「北欧・フィンランドにおけるケア」 第14回：国際比較 ケアワーク論「韓国などアジア圏におけるケア」 第15回：まとめ

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『介護福祉学の探求』有斐閣
参考書	『介護福祉学への招待』クリエイティブかもがわ 『一番ヶ瀬社会福祉理論の再検討』ミネルヴァ書房・『ケアの本質 メイヤロフ』 『「地域ケアを拓く介護福祉学」シリーズ 生活支援の実践』光生館 『「地域ケアを拓く介護福祉学」シリーズ 生活支援の基礎理論Ⅰ』光生館
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論演習（生活支援論・自立支援介護）
科目責任者	古川 和稔
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	施設完結型介護ではなく、地域型の介護福祉実践を想定した事例検討を行う。介護職が中心となるチームで、多職種と連携し、支援が必要な対象者の自立に向けた支援方法の実際について、演習を通して学修する。
到達目標	1. 専門分野における高度な知識と技術を習得し、実践モデルを作成できる。 2. 最新の知識、理論について文献を調べるとともに、発表・討議ができる。 3. 事例をもとに、自立支援型ケアプランを作成できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1 回：生活支援における介護福祉士の役割について グループ討議 第 2 回：介護福祉実践の対象について グループ討議 第 3 回：介護福祉士に求められる専門的な生活支援技術の構造について グループ討議 第 4 回：介護福祉実践の根拠について グループ討議 第 5 回：自立支援型ケアプラン総論と施設からの在宅復帰 第 6 回：自立支援介護 水の生理学について グループ討議 第 7 回：自立支援介護 食事ケアの観点 グループ討議 第 8 回：自立支援介護 排泄ケアの観点 グループ討議 第 9 回：自立支援介護 歩行ケアの観点 グループ討議 第 10 回：自立支援介護 認知症ケアの観点 グループ討議 第 11 回：自立支援型ケアプラン演習① 排泄ケアの困難事例 第 12 回：自立支援型ケアプラン演習② 食事ケアの困難事例 第 13 回：自立支援型ケアプラン演習③ 歩行ケアの困難事例 第 14 回：自立支援型ケアプラン演習④ 認知症ケアの困難事例 第 15 回：自立支援型ケアプラン演習⑤ 施設からの在宅復帰事例

学修方法	「討議」と「発表」を中心に行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『地域ケアを拓く介護福祉学』シリーズ 生活支援総論』 光生館 『介護の生理学』 秀和システム
参考書	授業中に随時連絡します。
事前・事後学修	事前学習：授業で示した資料及び関連する文献を読んでおく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の古川和稔研究室 (2712 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	介護福祉特論演習（ケアワーク論・介護福祉人材育成論）
科目責任者	野田由佳里
単位数他	2 単位（30 時間） 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	・介護の社会化を資格制度と人材育成の両側面から理論的・体系的に考えながら、必要な理論と知識について講義を行う。 ・介護福祉士のキャリアパスについて職業能力から専門性を捉え学問体系の検討を行う。 ・今後の人材の質の向上・量の確保のために、介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラム各種研修制度について概説する。
到達目標	1. 専門分野における高度な知識と技術を習得し、実践モデルを作成できる。 2. 介護福祉士養成科目に関する知識、理論を習得し、解説することができる。 3. 介護福祉領域における任用資格などの養成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。 4. 介護福祉士養成科目に関する知識、理論を習得し、解説することができる。 5. 介護福祉領域における任用資格などの養成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。 6. 先行研究をベースにしたの発表やテーマにおけるデベートに積極的に臨むことができる 7. 対象者別の研修プログラムを作成・提案できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 講義 領域人間と社会編」 第 2 回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 講義 領域介護編」 第 3 回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 講義 領域こころとからだのしくみ編」 第 4 回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 実習編」 第 5 回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 演習編」 第 6 回：グループ討議 テーマ「ファーストステップ研修 A」 第 7 回：グループ討議 テーマ「ファーストステップ研修 B」 第 8 回：グループ討議 テーマ「ユニットリーダー制度」 第 9 回：グループ討議 テーマ「プリセプター・アセッサー制度」 第 10 回：研修プログラムの要素 第 11 回：対象者別研修プログラム作成演習①外国人介護士 第 12 回：対象者別研修プログラム作成演習②新人教育 第 13 回：対象者別研修プログラム作成演習③中堅者教育 第 14 回：対象者別研修プログラム作成演習④管理者教育 第 15 回：対象者別研修プログラム作成演習⑤相互交流プログラム

学修方法	「討議」と「発表」を中心に行います。
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談または moodle にて課題に対するフィードバックを行います。
指定図書	『地域ケアを拓く介護福祉学』シリーズ 生活支援総論』 光生館
参考書	馬場拓也「介護業界の人材獲得戦略」 幻冬社 武藤清栄「介護職の人間関係」 誠文堂新光社 伊藤亜紀「介護職が辞めない職場作り」 秀和システム
事前・事後学修	事前学習：授業で示した資料及び関連する文献を読んでおく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。

科目名	福祉工学特論 I
科目責任者	大川井 宏明
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	DP (2). 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	各人が学ぶ専門分野に福祉工学を採り入れることによって、新たな視点で各専門の理解を学問的に実務的に深め、複数産業と連携し新たな価値を創造し得る能力を培うことを目指す。
到達目標	1. 日常生活にある物理現象を見つけ解釈することを、福祉工学で考える契機とする。 2. 身体を観る(診る)手段を学び、身体に対する理解を深める。 3. 日常生活の中で身体内部でどのような営みが行なわれているか物理色で考える。 4. 自分の、今または将来の職業を福祉工学の視点で考える契機とする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回： 導入—生活と社会福祉に物理学が寄与している 第2回： 生活環境の中に物理学を観る：Ⅰ(暖冷房、換気など) 第3回： 生活環境の中に物理学を観る：Ⅱ(慣性、料理など) 第4回： 細胞と組織の構造と機能 第5回： 身体対象の物理学(観る、治療する、代行する)／感覚等 第6回： 身体を電気で観る 第7回： 身体を光、電波、電磁波で観る 第8回： 身体を力学で観る 第9回： 生体組織のゆるやかな変形(静的歪み。主動的な運動と受動的な運動) 第10回： 生体組織の俊敏な変形(動的歪み。主動的な運動と受動的な運動) 第11回： 重力の恩恵／水の恩恵 第12回： 細胞と組織の変形と背景にある連携活動の意味(運動器系、消化器系) 第13回： 細胞と組織の変形と背景にある連携活動の意味(呼吸循環器系) 第14回： 環境の観方と健康躍進(食、住まい、生活習慣に並存する健康要素と不健康要素) 第15回： 環境の観方と健康躍進(社会環境、自然環境に並存する健康要素と不健康要素)

学修方法	プリントとスクリーンを使った講義。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢)50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのではなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によつての講評する。
指定図書	なし。
参考書	なし。
事前・事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常の生活、職と健康について視点を広げて考える契機とする。命を引き継いできた人の営みの歴史に表現された神秘性と具体性を知り、現在命を引き継いでいる我々の営みを工夫し、併せて心の居場所を考える視点をもつ。これら視点を具体的に見えるようにする手段とする工学の視点を採り入れる。このため日々問題意識と意欲をもって、かつ、体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはないが、常に上記の視点をもち自主的に行動する。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	福祉工学特論Ⅱ
科目責任者	大川井 宏明
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	DP (2). 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	各人が学ぶ専門分野に福祉工学を採り入れることによって、新たな視点で各専門の理解を学問的に実務的に深め、複数産業と連携し新たな価値を創造し得る能力を培うことを目指す。
到達目標	1. 我々は人や社会の影響を受けており、これをサービスの提供ととらえそのサービスが心と身体の満足や健康を作ることを福祉工学で考える契機とする。 2. 満足と健康を計測し、解釈し、表現する手法を福祉工学で考える契機とする。 3. 自分の、今または将来の職業を、する、してもらう関係で考える。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：導入—サービスを受けて生活していること（システム工学の考え方） 第 2 回： サービスをすることと、してもらうことの関係（提供者と被提供者） 第 3 回： 言語と非言語によるコミュニケーション(意識・無意識との関連) 第 4 回： 心の満足・身体の満足と健康を測る—1（意識による回答・無意識による回答） 第 5 回： 心の満足・身体の満足と健康を測る—2（自律神経系の働き） 第 6 回： おもてなし(提供する心と享受する心の整合) 第 7 回： 屋内環境が提供するサービスがもたらす満足と健康 第 8 回： 社会環境、自然環境が提供するサービスがもたらす満足と健康 第 9 回： ストレスと満足と無関心 第 10 回： 健康をつくる 5 個の要素 第 11 回： 社会参加とコミュニティー 第 12 回： 願望と畏敬が導いた満足と健康（道具の歴史に託された心） 第 13 回： 身体の衣食住と心の衣食住 第 14 回： 介護や看護というサービス 第 15 回： 職業としての福祉と福祉工学を考える

学修方法	プリントとスクリーンを使った講義。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢)50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのではなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対するフィードバック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によつての講評する。
指定図書	なし。
参考書	なし。
事前・事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常の生活、職と健康について視点を広げて考える契機とする。命を引き継いできた人の営みの歴史に表現された神秘性と具体性を知り、現在命を引き継いでいる我々の営みを工夫し、併せて心の居場所を考える視点をもつ。これら視点を具体的に見えるようにする手段とする工学の視点を採り入れる。このため日々問題意識と意欲をもって、かつ、体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはないが、常に上記の視点をもち自主的に行動する。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	福祉工学特論演習
科目責任者	大川井 宏明
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	DP (2). 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	各人が学ぶ専門分野に福祉工学を採り入れることによって、新たな視点で各専門の理解を学問的に実務的に深め、複数産業と連携し新たな価値を創造し得る能力を培うことを目指す。
到達目標	1. 骨格筋の活動の一部を可能な範囲で計測体験をして、筋活動の精巧さを理解する。 2. 呼吸循環器系活動の一部を計測体験して、自律神経系活動の精巧さを理解する。 3. 自分の今または将来の職業と計測体験を関連付け福祉工学で考える契機とする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回： 入門編 1：筋活動を筋電図とエコーで観る (1)：解剖学・生理学 第 2 回： 入門編 1：筋活動を筋電図とエコーで観る (2)：装置の仕組み 第 3 回： 入門編 1：筋活動を筋電図とエコーで観る (3)： 第 4 回： 入門編 1：筋活動を筋電図とエコーで観る (4) 第 5 回： 入門編 2：横臥状態における呼吸循環器系活動を圧力変化で観る (1) ：解剖学・生理学 第 6 回： 入門編 2：横臥状態における呼吸循環器系活動を圧力変化で観る (2) ：装置の仕組み 第 7 回： 入門編 2：横臥状態における呼吸循環器系活動を圧力変化で観る (3) 第 8 回： 応用編 1：強度を変えた運動時の筋活動を観る (1) 第 9 回： 応用編 1：介護動作中の筋活動を観る (2) 第 10 回： 応用編 1：介護動作中の筋活動を観る (3) 第 11 回： 応用編 1：介護を受ける立場の筋活動を観る (4) 第 12 回： 応用編 2：疑似的無呼吸時の呼吸循環器系活動を圧力変化で観る (1) 第 13 回： 応用編 2：疑似的高血圧時の呼吸循環器系活動を圧力変化で観る (2) 「 第 14 回： 応用編 3：課題を提案し筋または呼吸循環器系の働きを観る (1) 第 15 回： 応用編 3：課題を提案し筋または呼吸循環器系の働きを観る (1)

学修方法	実験(演習)を主とする。
評価方法	データ採取の意味、原理、職業との関連等を関連させた問題意識、提案、討議内容による。
課題に対するフィードバック	その都度に行なう討議。
指定図書	なし。
参考書	なし。
事前・事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常の生活、職と健康について視点を広げて考える契機とする。命を引き継いできた人の営みの歴史に表現された神秘性と具体性を知り、現在命を引き継いでいる我々の営みを工夫し、併せて心の居場所を考える視点をもつ。これら視点を具体的に見えるようにする手段とする工学の視点を採り入れる。このため日々問題意識と意欲をもって、かつ、体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはないが、常に上記の視点をもち自主的に行動する。
オフィスアワー	2714 室に表示する。

科目名	社会福祉学特別研究	
研究指導教員	大友 信勝、大川井宏明、佐藤 順子、福田 俊子、石川 瞭子、藤田 美枝子、太田 雅子、横尾 恵美子、古川 和稔、野田 由佳里、川向雅弘、大場義貴（研究指導教員は領域および課題によって決まる）	
研究指導教員		
単位数他	8 単位（120 時間） 通年	
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	修士論文を作成するために必要な社会福祉学の領域の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。研究指導は、研究指導教員を中心に、社会福祉学分野の複数教員が協力しながら行う。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	
	<授業内容・テーマ等> 1 年次春semester：社会福祉原論特論、ソーシャルワーク論、社会福祉政策論、こども・家庭福祉特論、現代リハビリテーション学特論、保健科学英語特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	<評価方法> 討 論 参 加 度 (30%) 及び課 題の焦点化達 成度 (70%)
	1 年次秋semester： 春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。	発 表 態 度 (30%) 発表内 容及び研究計 画書の完成度 (70%)
	2 年次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。	研究計画の倫 理的配慮の精 度 (40%) デー タ収集の適切 性 (30%)、デ ータ分析の論 理性・技法の適 切性 (30%)
	2 年次秋semester：指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。	論文の完成度 (70%) 第 3 者 の評価による 修正の適切性 (30%)

学修方法	ディスカッション、発表、個別指導、講義
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談等によってフィードバックを行う
指定図書	なし
参考書	授業時に随時連絡
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を学修する。(40 分) 事後学修：授業内容について振り返り整理しておく。(60 分)
オフィスアワー	初回授業時に提示